

News Letter

Japanese Association of Exercise Therapy and Prevention

第44回 日本臨床運動療法学会学術集会 開催報告

2025年9月13日（土）、14日（日）に、順天堂大学本郷キャンパス第3教育棟（東京都文京区）を主会場として、第44回日本臨床運動療法学会学術集会が開催されました。私は大会長を拝命し、テーマを「全世代における健康増進を目指した運動療法」といたしました。

プログラムにおいては、基調講演、会長講演、理事長講演をはじめ、7つのシンポジウム、ジョイントセッション、教育講演、ランチョンセミナー、一般演題、優秀演題セッションなど、多彩な内容で構成されました。シンポジウムでは、ライフコースを通じた運動の在り方、フレイル・サルコペニアと運動、社会的処方、地域資源を活かした多職種連携、高強度インターバルトレーニング、腎臓リハビリテーション、運動時の脳血流モニタリングなどが取り上げられました。さらに、

会長 田村 好史

順天堂大学大学院 スポーツ医学・スポーツロジー
/代謝内分泌内科学 /スポーツロジーセンター

順天堂大学国際教養学部
グローバルヘルスサービス領域

教育講演ではマイオカインや呼吸リハビリテーション、ロコモ・フレイル予防など最新の知見が紹介され、共催セミナーでは肥満症診療、Curves StudyとBunkyo Health Studyの成果、MASLD・糖尿病に関連した運動療法、女性の低体重/低栄養症候群などが報告されました。一般演題にも多くの応募をいただき、活発な討論が行われました。

本学会の開催にあたり、多くの先生方、演者の皆様、企業関係者の皆様にご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。また、共催・後援いただきました関係学協会ならびに順天堂大学の関係各位のご支援に、厚く御礼申し上げます。ご参加いただいた皆様には、本学会を通じて運動療法の知識と実践をさらに深めていただけたものと存じます。ありがとうございました。



会場



会長講演

第44回学術集会優秀演題

第44回日本臨床運動療法学会学術集会では特に優れた研究発表が「優秀演題」として表彰されました。受賞された演題と発表者を紹介いたします。



地域在住高齢者における筋力・身体機能に対する耐糖能の影響 : Bunkyo Health Study



小貝 俊樹

順天堂大学大学院医学研究科
代謝内分泌内科学

骨格筋電気刺激の遠隔使用に対する安全性と有効性



福田 瑞恵

獨協医科大学日光医療センター
リハビリテーション部

日本の地域在住高齢者における咬筋容積と無症候性ラクナ梗塞との関連 : The Bunkyo Health Study



ABUDUREZAKE ABULAITI

順天堂大学大学院医科学研究科・
スポーツロジーセンター
順天堂大学健康総合科学先端研究機構

男性心疾患患者におけるIsocapnic bufferingの関連因子の検討 –CPX以外の要素からの検討–



浅田 翔太

関西医科大学附属病院健康科学センター
関西医科大学大学院 医学研究科

次回学術集会のご案内

次回も実りのある修練と交流の場となりますよう準備を進めています。多くの皆様のご参加を心よりお待ち申しあげます。

第45回 日本臨床運動療法学会 学術集会

The 45th Annual Meeting of
the Japanese Association of
Exercise Therapy and Prevention

2026年
9月5日(土)/6日(日)

会場：昭和医科大学 上條記念館（東京都品川区）

事務局：(有)ビジョンブリッジ
E-mail : jaetp2026@visionbridge.jp



会長
木庭 新治

昭和医科大学医学部
内科学講座
循環器内科学部門

詳細は
こちら



Feature

新評議員選任のお知らせ

本学会では、定款第54条に基づき理事会において会員の中から新たな評議員10名が選任されました。今後の学会運営へのご助言とご支援のほどよろしくお願ひいたします。

本学会役員一覧

[はこちら](#)



新たに選任された評議員のご専門・ご所属

大坂 貴史 (医師)

糖・脂質代謝 (内分泌・糖尿病) / 綾部市立病院

加賀 英義 (医師)

糖・脂質代謝 (内分泌・糖尿病) / 順天堂大学

久保田 真由美 (健康運動指導士・実践指導者)

運動処方 / 関西医科大学総合医療センター 健康科学センター

二階堂 晓 (医師)

循環器 (心臓リハビリテーション) / 八王子みなみ野 心臓リハビリテーションクリニック

三浦 美佐 (理学療法士)

リハビリテーション / 国立大学法人筑波技術大学

(五十音順、敬称略)

宮内 拓史 (健康運動指導士・実践指導者)

運動処方 / 関西医科大学附属病院健康科学センター

宮澤 優 (理学療法士)

急性期・回復期リハビリテーション全般、心臓リハビリテーション / 昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院

宮脇 大 (医師)

循環器 / 株式会社Doctor's Fitness

元山 宏華 (医師)

糖・脂質代謝 (骨粗鬆症、内分泌、サルコペニア、肥満、老年医学) / 大阪市立総合医療センター糖尿病・内分泌内科

横田 裕哉 (医師)

循環器 / 昭和医科大学循環器内科

Information

JAETP Web CC (ケースカンファレンス)

ケースカンファレンスは運動療法に関わるスタッフの臨床能力向上のための勉強会です。質疑応答やディスカッションの時間も設けています。ぜひ奮ってご参加ください。

第23回 11.7 (金) 18:30- オンライン開催

もまたなく!
次回開催
参加無料

株式会社SHARE

代表取締役 佐伯 輝明 先生

SHAREは、パーソナルジム、メディカルフィットネスやリハビリティサービスなどを通じて、地域の人々の健康と笑顔を支える会社です。 (公式HPより)

会社概要



運動療法に関連する注目論文を紹介します(広報委員会企画)

Journal 紹介

本年(2025年)3月に米国心血管・肺リハビリテーション学会(AACVPR)から「心臓リハビリテーション(心リハ)においてアウトカムを最適化するための有酸素運動の総量」と題するステートメント(Savage PD, et al. J Cardiopulm Rehabil Prev 2025;45:161-168)が発表されました。このステートメントは、これまで運動処方において「FITT (Frequency頻度・Intensity強度・Time時間・Type運動様式)」の陰に隠れがちであった「運動

後藤 葉一

北大阪ほうせんか病院
副院長
循環器内科



の総量」に焦点を当て、予後改善のために運動・身体活動の総量を確保することの重要性を解説した文献として、心リハ領域の会員はもちろん、心リハ領域以外の会員の皆様にもご参考になるのはと考え、ご紹介いたします。 (次頁へ続く)

運動処方の基本的要素として「FITT」が知られており、運動療法の現場で具体的に指示されますが、運動の総量(Exercise volume、ExVol)については具体的に指示されることはないのが現状です。一方、心血管疾患患者では最高酸素摂取量($\dot{V}O_2$)が高いほど、また心リハ期間中の $\dot{V}O_2$ 増加が大きいほど長期予後が良好であることが知られ、 $\dot{V}O_2$ 増加の独立規定因子としてExVolと運動強度が報告されており、患者に対して適切なExVolを指導することが重要です。ExVolの推測方法として歩数計による1日歩数があります。過去の報告では、1日7,000～8,000歩以上、そのうち3,000歩は毎分100歩以上の速歩とすることが健康上有益とされています。

多くのガイドラインでは健康増進や心血管疾患予防のために「中強度の運動(身体活動)を週150分以上行う」ことが推奨されており、これは週

500～750 METs・分以上、消費エネルギーでは週600～1,000 kcal以上に相当します(図)。また過去の研究で冠動脈狭窄の進行を止めるためには週1,500 kcal以上、狭窄を退縮させるためには週2,200 kcal以上の運動が必要と報告されています。これに対し、心リハ1セッション当たりのExVolは200～300 kcalに過ぎず、週2～3回外来心リハセッションに参加するだけでは不十分であり、十分なExVolを確保するためには心リハプログラムにおける工夫・改善とともに、患者の個別条件を踏まえて心リハセッション以外の場でも身体活動量を増加させる指導が必要です。

結論として、ExVolを定量化し、長期予後改善のために従来の運動処方の枠組みを超えてExVolの目標を達成する方策を患者と相談し励ますべきであると述べています。

米国心血管・肺リハビリテーション学会ステートメント：心臓リハビリテーションにおいてアウトカムを最適化するための有酸素運動の総量

Volume of Aerobic Exercise to Optimize Outcomes in Cardiac Rehabilitation.
An Official Statement from the American Association of Cardiovascular and Pulmonary Rehabilitation
(Savage PD, et al. J Cardiopulm Rehabil Prev 2025;45:161-168)

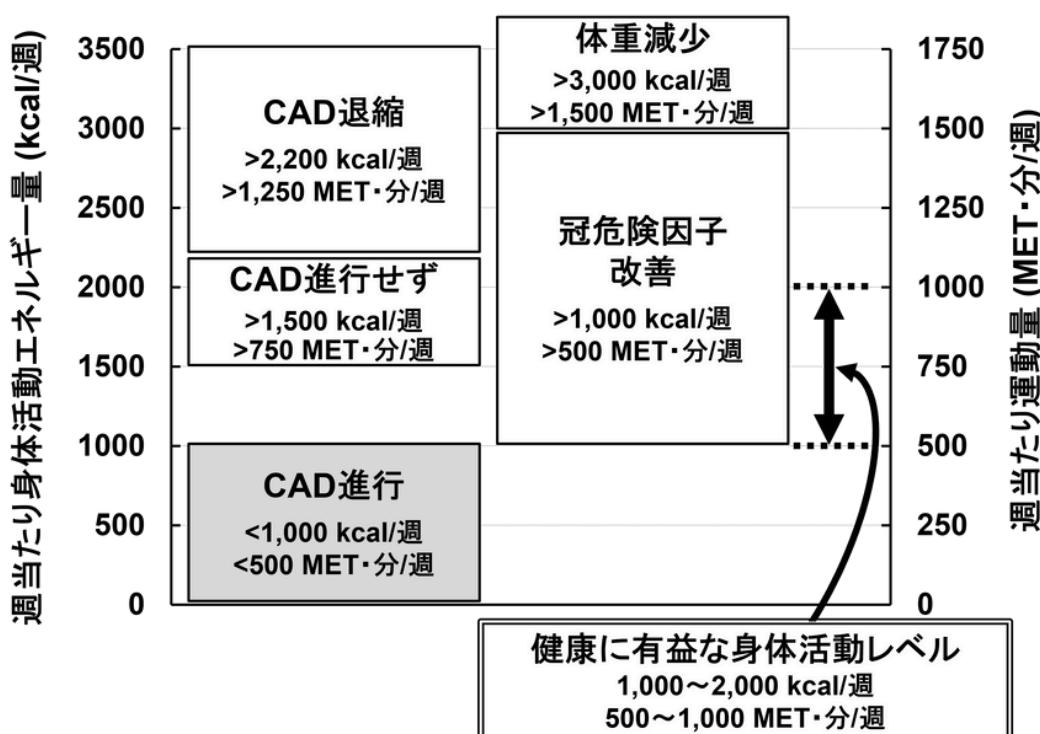


図. 目標とする1週当たりの身体活動量

健康増進のためには週1000～2,000 kcal、または500～1,000 MET・分の運動量(身体活動量)が必要。

CAD, Coronary artery disease (冠動脈疾患); MET, Metabolic equivalent of task (代謝当量)

(Savage PD, et al. J Cardiopulm Rehabil Prev 2025;45:161-168に基づき著者作成)

Focus

CEPA Japanのご紹介 (Clinical Exercise Physiologist Association in Japan)

CEPA Japanは、2009年に発足し、2014年9月に本学会の分科会として承認されました。その後、2024年6月に本学会定款細則において、下部組織として活動内容や運営方法が整備されました。

医療・福祉現場で働く健康運動指導士や運動指導専門家の社会的台頭とスキルアップを目的とした、以下の活動を柱としています。

- ・医療・福祉現場で働く健康運動指導士および運動指導専門家のネットワーク形成
- ・チーム医療の一員とした運動指導のスキルを高めるための支援やセミナー開催
- ・運動現場からのエビデンス発信
- ・運動指導者を養成する教育機関との連携

セミナー開催報告

先日、コロナ禍以降久しぶりに現地開催となるセミナーが開催されました。

(開催案内は[こちら](#))

日 時 2025年8月2日（土）10:30～15:00

会 場 熊本機能病院 南館大ホール（熊本市北区山室）

第1部



「生活習慣病患者の安全で効果的な運動プログラム作成」

黒瀬 聖司 先生

大阪産業大学スポーツ健康学部 教授

第2部

「生活習慣病患者の運動プログラム作成 実習一心拍数と血圧管理に注目してー」

山下 亮 先生

熊本健康・体力づくりセンター 課長

講義と実習を組み合わせた内容で、参加者からは「臨床現場に直結する実践的な学びだった」との声が寄せられました。現地ならではの双方向的な交流も活発に行われ、充実した会となりました。

次回セミナーのご案内

[詳細・お申込み](#)

日 時：2025年11月16日（日）9:00～12:00

会 場：川崎医科大学（岡山市）
高齢者医療センター フレイルセンター

テマ：「運動指導者に知っておいてほしい医療・
福祉現場で役立つピラティス」

講 師：藤谷 順三 先生
徳島大学大学院 医歯薬学研究部 特任准教授

CEPA Japanへの入会ご案内

CEPA Japanの活動には本学会員を基本としつつ、
学会員以外の方もセミナー等に参加可能です。
ただし、本学会への入会を推奨しています。
一緒に、臨床現場に根差した活動を広げましょう。

CEPA Japan
入会は[こちら](#)



JAETP
入会は[こちら](#)

